



実践クラブ
馬渡 光春 議員

問 温泉給湯事業について 今年で事業開始から50年

Q 島原市の観光や活性化に大きな貢献をしてきた給湯事業。推移と現状は。

A 燃料費との戦いだったが、平成28年度からヒートポンプを導入。ホテル・旅館が7件、一般家庭が35件に減少している。

Q 安定的運営について、①今回の更新事業費と償還計画、②耐用年数と滞納対策は。

A ①約9億5千万円。10年間で償還予定。②耐用年数は15年。給湯停止も一つの方法である。

Q 温泉利活用の推進は。

A 工事分担金の見直しも検討。温泉の特徴を生かした活用を推進したい。

問 中学校の部活動について

Q 能力や体力、競技力を高め、達成感や責任感を育成する大事な部活動だが、中学校における位置づけは。

A 学校教育の一環として生徒の自主的な参加による活動である。

Q 指導と部活動の現状は。

A 顧問である教員が外部指導者や保護者と連携して指導。近年の加入率は85〜87%である。

Q 部活動の課題と指導について、①活動時間や休暇、②安全対策と事故防止対策、③部所有の車の把握と事故防止の指導、④体罰・いじめの状況、⑤外部指導者の現状は。

A ①季節で時間を決めているのが3校、通年午後7時までが2校。28年度から設けた夏休み中の閉校日は部活も中止。②危機管理マニュアルにより、生徒の安全確保と生命を最優先に対応を指導。③3校で5台を保護者会で所有。安全な移動を要請。④外部指導者による体罰が1件。いじめの報告はない。⑤外部指導者は61人で、校長が推薦し教育長が委嘱する。スポーツ保険に加入し、報酬は年1万8千円である。



バラの会
松坂 昌應 議員

問 島鉄を活かす

Q 地域公共交通を担う島鉄を企業として捉えるのではなく、行政・市民で守っていくべきだと思うが。

A 地域公共交通講演会の中で、交通事業者や行政任せでは、公共交通は明日にもなくなるかもしれない。住民一人一人が自分のこととして行動を起こさなければならぬという指摘があった。

Q 島鉄本社前駅からバスターミナル、イオン周辺の交差点や歩道等の抜本的な整備が必要。鯉の泳ぐまちや商店街につなぐ考えは。

A 高齢者が集えるコミュニティの場としてイオンは適しており、そこにバス発着所があることはコンパクトシティの観点からも有益である。島鉄本社付近から中心市街地、そして鯉の泳ぐまち界限には大きな流れがあると認識している。

問 湧水を活かすまちづくり

Q 島原市の創生総合戦略では「湧水を核とした島原市ブランドイメージ」を掲げているが、具体的な施策が見えない。本当に湧水を活かす気があるのか。

A 「湧水のまち島原」は大前提。四明荘、清流亭、湧水館のエリアを歩行者天国にしたり、湧水と生活が密着した銀水などをピックアップして湧水のイメージを演出したい。

Q 湧水で観光地をつなぐことを提案したい。四明荘や堀部邸など歴史ある建物や街並みも生かしてほしい。これらは湧水にゆかりがある。

A 城下町ならではの建物として今後活用を考えていくべきであり、その中心には「湧水」があると考えている。

【その他の質問項目】

- ◇たばこ栽培からの転作に支援を
- ◇高規格道路とグリーンロードの関係
- ◇納税組合廃止
- ◇市民相談センターに女性相談員を